



VLAN サブインターフェイス コマンド

このモジュールでは、Cisco NCS 5001 ルータおよび Cisco NCS 5002 ルータで 802.1Q VLAN を設定するためのコマンドライン インターフェイス (CLI) コマンドについて説明します。

VLAN サブインターフェイスの概念、設定作業、および例の詳細については、『Cisco NCS 5000 シリーズルータ向けハードウェア コンポーネント コンフィギュレーションガイド』を参照してください。

- [interface \(VLAN\), 2 ページ](#)

interface (VLAN)

VLAN サブインターフェイスを作成するには、XR コンフィギュレーション モードで `interface` コマンドを使用します。サブインターフェイスを削除するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

interface *type interface-path-id.subinterface* [**l2transport**]

no interface *type interface-path-id.subinterface* [**l2transport**]

構文の説明

<i>type</i>	VLAN を作成するイーサネット インターフェイスのタイプ。 GigabitEthernet 、 TenGigE 、または Bundle-Ether を入力します。
<i>interface-path-id.subinterface</i>	物理インターフェイスまたは仮想インターフェイスの後にサブインターフェイス パス ID が続きます。命名の表記法は <i>interface-path-id.subinterface</i> です。表記の一部としてサブインターフェイス値の前にピリオドが必要です。 ルータの構文の詳細については、疑問符 (?) を使用してオンラインヘルプを参照してください。
l2transport	指定された VLAN インターフェイスでレイヤ 2 送信ポート モードをイネーブルにし、レイヤ 2 送信コンフィギュレーション モードを開始します。l2transport キーワードは、VLAN インターフェイスを L2 モードで作成し、L2VPN とローカルスイッチングで使用できるようにします。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

r-interface-vlan-common

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン *interface-path-id* 引数の場合は、次のガイドラインを使用します。

- 物理インターフェイスを指定する場合、命名の表記法は *rack/slot/module/port* です。値を区切るスラッシュ (/) は、表記の一部として必須です。命名の表記法の各構成要素の説明は次のとおりです。

- *rack* : ラックのシャーシ番号。
- *slot* : ラインカードの物理スロット番号。
- *module* : モジュール番号。物理層インターフェイス モジュール (PLIM) は、常に 0 です。
- *port* : インターフェイスの物理ポート番号。

- イーサネット バンドル インターフェイスを指定する場合、範囲は 1 ~ 65535 です。

subinterface 引数の範囲は 0 ~ 4095 です。

大量のサブインターフェイスを設定するには、*interface* コマンドをコミットする前にすべての設定データを入力することを推奨します。

レイヤ 2 とレイヤ 3 の間でインターフェイスのモードを切り替えるには、最初にインターフェイスを削除してから、適切なモードで再設定する必要があります。



(注) VLAN ID が割り当てられていない場合は、サブインターフェイスはトラフィックを渡しません。

タスク ID

タスク ID	動作
vlan	読み取り、書き込み

例

次に、10 ギガビット イーサネット インターフェイスで VLAN サブインターフェイスを設定する例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# interface TenGigE 0/0/0/10.1
RP/0/RP0/CPU0:router(config-subif)# ipv4 address 30.0.1.2 255.255.255.0
RP/0/RP0/CPU0:router(config-subif)# encapsulation dot1q 3201
```

次に、レイヤ 2 送信ポート モードをイネーブルにして VLAN サブインターフェイスを作成し、その VLAN でレイヤ 2 送信コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# interface TenGigE0/0/0/10.101 l2transport
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if-l2)#encapsulation dot1q 101
```

